

# 啓伸塾便り

## 医学のかたわら短歌をつくった

茂吉のふるさとには、山形県・蔵王のふもとに村があります。茂吉は子供のころ、村を流れる須川の河原や家のとなりであった法泉寺というお寺の境内で、遊びまわっていました。

そのころの男の子の遊びといえば合戦ごっこです。頭の良い茂吉は作戦を考えて、敵をおいつめました。「わーい！勝ったぞー！」いつも作戦勝ちで、茂吉はガキ大将でした。

めくまれた自然のなかで、みんなと遊んではかりましたが、それだけでなく、弟といっしょに一日に何回もお寺に行きました。

おしよつさんが、「また、来たのかー」と、あきれましたが、習字の墨をするのを手伝うと、お菓子をもらえたので、それが楽しみでした。

おしよつさんはかっこいい茂吉を、たいそうかわいがり、習字や漢文など多くのことを教えて、茂吉をお寺の跡継ぎにしよつと考えていたこともありました。

茂吉は小学校の帰り道、林の中に寝転んで、流れていく雲を目でおいながら、自分の将来についてあれこれ考えました。

「法泉寺の小僧になるのもいいな。それとも蚕でも飼おうかな。」

また、茂吉は絵を描くのも大好きだったので、「絵描きの修行に行くのもいいかもしれない。」とも思いました。十四歳になった茂吉は、小学校の高等科を一番の成績で卒業しました。

## 中3生のみなさんへ

定期テストも終わり、学校の実力テストの結果も出て、岐阜新聞テスト第3回めの結果も、もうすぐ送られてくるといいます。そして学校の三者懇談を控え、いよいよ進路をきめる時期となりました。中3生のみなさんは、3年後のことまで考えて、お父さん、お母さんと志望校について考えてもらいたいと思います。

よくこの時期になると早く進路を決めて楽になりたいので、今の成績でいけるといって安易な気持ちで決める子がいますが、それだけはやめましょう。後になって後悔することになります。志望校のことは子供たちと個別にお話をしていますが、必要な保護者の方は、いつでも気軽にご相談ください。

何度も言うようですが、一生の財産になる学習習慣を身に付けるのは、この高校受験の時期がラストチャンスです。受験生をお持ちの保護者の方は、ご家族一丸となって、お子様の受験を乗り越えましょう。

インフルエンザの予防接種は、特に中3生は是非受けてください。

## 今月の予定

冬期休講は下記のようにさせていただきます。

12月 29日(土)～1月4日(金)

☆ 年始は1月7日(月)より通常の授業を行います。

ただし、**中3生は冬期講習を行います**ので上記の冬休みは適用されません。冬期講習の日程については、連絡済みです。

☆ **中3生の冬期講習は、12月8日(土)から始まります。**

☆ **12月24日(月) 振替休日 塾あります**

☆ **1月14日(月) 成人の日 塾あります**

## 冬休み期間中の塾の自習室について

中3生はもちろん、中1、2年生のみなさんも学校の復習、宿題等にご利用ください。もちろん、質問等も受け付けます。日程については、後日連絡します。

## 医学と短歌のふたつの道を究めた

斎藤茂吉は、1882年、山形県の農家に生まれました。

幼い時から秀才のほまれ高かった茂吉は、周囲の人のほからいで14歳の時に東京へ行きました。進学することと親せきの営んでいる病院の養子になることが決まりました。

勉学に励んで医者になりました。しかし、それだけでなく、高校時代に正岡子規の遺稿集『竹の里歌』に出会い、深く心を揺り動かされ、短歌をつくることを志すようになりました。

第一歌集『赤光』をはじめ、生涯に17冊の歌集を刊行し、歌論や随筆などでも活躍したのです。

おしよつさんは、このまま田舎にいたいとは思いません。茂吉の将来について考えました。そして、東京で医業を営んでいた茂吉の親せきの斎藤家の養子にして、ゆくゆくは医者になってもらいたいと思いい、話を進めました。

茂吉は東京に行くことになり、お父さんといっしょに六十キロメートル近い道のりをてくてく歩いて駅までたどり着きました。そして、列車にゆられて、上野駅についてびっくりました。

「世の中にこんなに明るい夜があるなんて！」茂吉は、生まれ育った田舎とのちがいに足がすくみそうになるのを必死にこらえました。そして、斎藤家の営む浅草医院がとてもしつぱなことにおどろきました。

それから、茂吉は、医者になるために一生懸命勉強しました。

12月号  
(師走)  
December

基礎学力を重視する学習塾  
**啓伸塾**  
ただ今、冬の新入塾生募集中